喜一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【Ｎコード】
Ｎ９３１８Ｏ

【作者名】
喜一

【あらすじ】
まだ未設定です（・ω・、）

迅速に、かつ、足音を立てず。
木々が生い茂る森の中を、闇雲にひたすら走る。
耳をすましても、静まり返った森からは自分の息づかいしか聞こえない。
空には満月が見えていた。
しかし、分厚い雲が月の輪郭をぼやかしているためか、辺りは漆黒の闇に包まれている。
それが不気味だった。暗闇に慣れているとはいえ、体にまとわりつくような闇に身動きがとれない。諦めよう。怪我をした足は、もう動かない。既に血は固まっているものの、止血せず走り続けた結果、血を流し過ぎた。
立ち止まり、木の幹に寄り掛かる。
何時間も走っているが、一向に着かない。
このまま走っていても、着くかどうかさえ分からない。それなら、早々に諦めようか。痛みだけならまだしも、絶え間なく襲ってくる眠気に瞼を閉じる。
弾に何か塗っていたのか？
普通の人間では鎖に繋がれていない状態の俺たちにはかなわないだろう。
弾に薬を仕込み、なるべく多くの奴を動けなくし、後でじわじわと殺す：奴らの考えそうな事だ。
実際、俺に向かって発砲した男は、弾が当たったのを見て嬉しそうに笑っていた。
そして、俺が倒れれば、興味を無くしたように他の的を探していた。
ぎりっと、無意識に奥歯を噛み締める。
他の奴らは上手く逃げれただろうか？
相手の数は、圧倒的に俺たちを上回っていた。逃げるのは不可能に

近いだろう。よくて5人‥いや、1人でも逃げ切れていればいい方だ。
深くため息をつく。このまま眠ってしまおう‥そうすれば、楽になれるかもしれない。
ずるずるとしゃがみ込み、木に体重をかける。投げ出すように伸ばした左足は、既に感覚がなくなっている。
走りつづけたためか空気がうまく吸い込めない。沢山吸い込もうとすればするほど目眩にもにた感覚で、視界が歪む。
不意に、遠くから声が聞こえてきた。
それとほぼ同時に、静寂した森に銃声が鳴り響く。
無意識に力がこもり、膝を立てる。その行動に思わず苦笑をもらした。
いざ心を決めても、所詮は死にたくないのだ。
ここにいたら確実に捕まる。どうせ捕まるのなら、最後まで足掻いてやる。
簡単になんか捕まってやらない。
深く息を吸い込む。澄んだ空気を肺に流し込み、目の前の闇を見据えた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9318o/

2010年11月15日10時23分発行